

# 星に願いを（ふたご座流星群）

みなさん、最近悩み事がありますか？そういうときはどうしていますか？友達に相談する、親に相談する、先生に相談する、など、いろいろあると思いますが、誰にも言えないようなこともありますよね。そんなときは、流れ星に願いをかけてみましょう。

流れ星が見えている間に願い事を3回唱えると、願い事がかなうという話、聞いたことがありますか？でも、流れ星はいつ、どこで見られるかわかりません。流れ星がたくさん見える日があるといいのですが・・・。実はそんな都合の良い日が今日なんです。

そもそも流れ星の正体とは何でしょうか？流れ星は宇宙空間に彗星がまき散らした小さなチリ（1mm～数cm程度）が地球の大気に飛び込み、その摩擦で燃えて輝いたもの（ふたご座流星群の母天体は、小惑星ファエトン）なのです。流れ星がたくさん見られる流星群は、星空の特定の位置を中心に放射線状に流れていくように見えます。流星群の流れてくる方向、つまり放射状の中心点を放射点（輻射点）と呼び、その放射点の方向にある星座によって、〇〇流星群と呼びます。今日は有名な三大流星群の一つ、ふたご座流星群がたくさん見られる日なのです（ふたご座流星群の放射点は、ふたご座のα星・カストルの近く）。

国立天文台によると、東京の場合は午後10時ごろが月の出の時間帯となるため、月が高く昇る前の午後9時から深夜0時ごろがお勧めだそうです。このとき、空の暗い場所では、1時間あたり40個～45個程度と予想されています。

流星は、放射点を中心に放射状に出現しますが、放射点付近だけでなく、どちらの方向にも現れますので、なるべく空の広い範囲を見渡すようにしましょう。また、屋外の暗さに目が慣れるまで、最低でも15分ほどは観察を続けるとよいでしょう。

寒い時期なので、暖かい格好をして観測してみてもはどうでしょう。みなさんはどんな願い事をしますか？

## — 豆知識 —

地球が1年の同じ時期にその彗星の軌道を横切るので多少の差はあるものの、ほぼ決まった時期に流星群を見ることができます。

毎年安定して出現する流星群の中で、**12月14日前後の“ふたご座流星群”**

**1月3日前後の“りゅう座流星群”、8月13日前後の“ペルセウス座流星群”は3大流星群**と呼ばれています。

多いときは一時間で10～100個以上見えるときもあります。ごくまれに人の影が出来るほどの明るい流星が流れることがあります。普通の流星とは区別して**火球**と呼ばれていますが、この正体は小惑星のかけらです。ちなみにそれが大気の摩擦でも燃え尽きず地上に落下してくるものを**隕石**と呼びます。

